

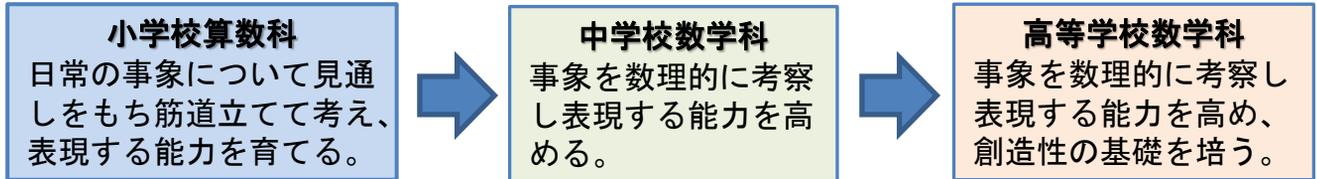
分かる喜びや、考える楽しさを実感させる算数・数学の授業を

「しっかり教える じっくり考えさせる」授業に取り組みましょう

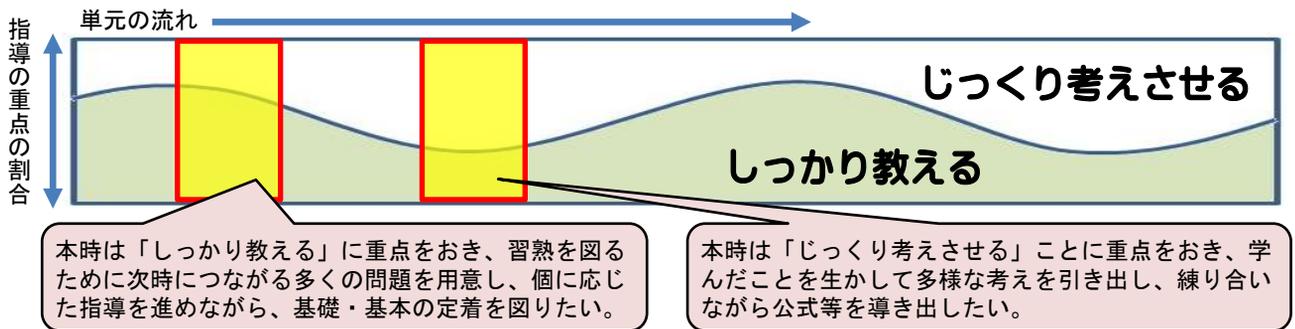
ポイント 1

小・中・高等学校における算数・数学科の目標を体系的にとらえ、各領域の指導内容を踏まえて、単元の中で、「しっかり教える」内容と「じっくり考えさせる」内容を意識して指導計画を立てる。

学習指導要領で示された算数・数学科の目標（一部）

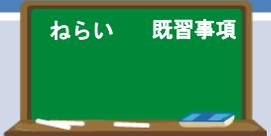


単元の指導イメージ（例）



ポイント 2

1時間の授業で、ねらいを明確にし、めりはりのある学習過程を工夫し、ねらいの達成状況を確認に見届ける。教えなければならない内容は、教師が「しっかり教える」。

授業で 心がけたいこと	
導入	<p>ねらいを明確に</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題(問題)を黒板等に分かりやすく示す。 ○ 前時の復習等を適宜取り入れ、学び直しの機会を設ける。 
展開	<p>めりはりをつけて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「しっかり教える」「じっくり考えさせる」のどちらに重点をおいた授業なのか、学習方法や時間配分を考えて学習過程を工夫する。 ※ 問題解決的な学習過程を固定的にとらえるのではなく、ねらいに応じて柔軟に設定する。 ○ 何を「教師が教え」、何を「子どもに考えさせる」のかを、ねらいに応じて明確にする。 ○ ねらいに応じた算数・数学的活動を適切に位置付ける。 ○ 自力解決の場面と学び合いの場面を設定する。 ○ 学習内容に「活用する問題」を適宜取り入れる。 
終末	<p>ねらいの達成を確実に見届ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 定着・発展問題等を行う時間を確保し、習熟の機会を適宜設ける。 ○ 学習内容や学び方を振り返る場を設定する。 

ポイント 3

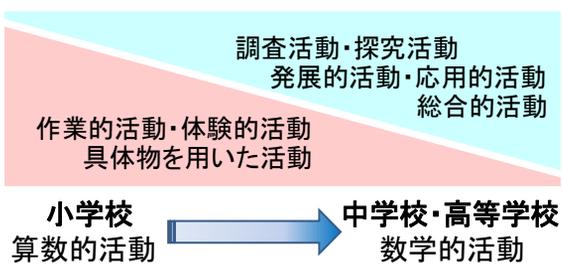
すべての領域で、「算数・数学的活動」を通して指導するとともに、算数・数学のよさを実感させる。

算数・数学的活動とは…

児童生徒が目的意識をもって主体的に取り組む算数・数学にかかわりのある様々な活動

よさを実感させる活動を…

発達の段階に応じた算数・数学的活動の変化



★ **小学校**では、ものづくりをするなどの作業的活動、数や量の大きさを確かめるなどの体験的な活動等を通して、活動の楽しさを児童に気付かせましょう。

★ **中学校**では、数学的な表現や処理のよさ、基礎的な概念や原理・法則のよさ、数学的な見方や考え方のよさを実感させ、生徒の意欲を高めましょう。

★ **高校**では、数学の特長、数学的活動や思索することの楽しさなどの数学のよさや意義を認識させ、生徒の主体的な取組を促しましょう。

★ 算数・数学的活動の手立てとして、言語活動を充実させ、基礎・基本を定着させるとともに、**活用する力**を向上させることが大切です。

◆ **活用する力**とは ◆ (宮崎県)
身に付けた知識・技能をもとに、自ら考え、判断し、表現しながら課題を解決する力

ポイント 4

自力解決と学び合いの場面の役割を明確にし、考えさせることを焦点化する。

自力解決の場面

すべての子どもが自分なりに課題解決に向かう時間

★ 何をどのように自力解決させるのか、明確な指示と、一人一人の状況の把握がポイント

【具体的な活動例】

- 分からないこと、解決すべきことに気付く
- 自分の考えをもつ
- 自分の考えをかき表す (言葉・数・式・図・表などを用いて)
- 自分の考えを整理する
- 自分の考えの説明の仕方を考える

学び合いの場面

集団思考(ペア・グループ・全体)によって、すべての子どもが分かる時間

★ 考えを深め合い、課題を解決するための発問がポイント

(根拠・比較・関連付け・ゆさぶり等)

【具体的な活動例】

- 自分の考えや解決方法を伝え合う
- 他の考えにふれ、理解を深める
- 多様な考えを比較・検討し、共に課題を解決する
- 重要なことがらを共有し、まとめる
- 他の視点で自分の考えを振り返る



ポイント 5

小中高における継続した指導で、学び方や学習技能を身に付けさせる。